

# 活動報告

## 2012/13年ガンカモ調査中間報告 今年のカモ類の数は西高東低？

神山和夫

ガンカモ類の調査という、環境省と都道府県が1970年の1月から行っているガンカモ類の生息調査(ガンカモ一斉調査)が有名ですが、1月だけの調査では渡り時期にガンカモ類が多い生息地は過小評価になってしまいます。冬に湖沼が凍結する地方はもちろんですが、温暖な地方でも、種によっては秋や春の渡り時期に数が増加することが、これまでの調査で分かっています(バードリサーチニュース 2011年12月号参照)。

バードリサーチが行なっているガンカモ調査では、調査参加者の皆さんに飛来時期を通して個体数をカウントしていただくため、冬期のみ調査よりは正確にその場所に飛来する最大数を把握することができるのですが、そのデータを使って、昨年と今年を比較してみました。出現地点の多い7種のカモ類について、今年9~1月に最大数20羽以上が記録された地点を、昨年の同一期間と比較するという方法をとっています。

### 関東のマガモは昨年より減った

多くの調査地で記録されているマガモについて、2011/12年に対する2012/13年のマガモの個体数割合を調査地ごとに比較してみると、関東では昨年より今年の方がマガモの数が減った調査地、つまり昨年比100%以下の地点が多く、それ

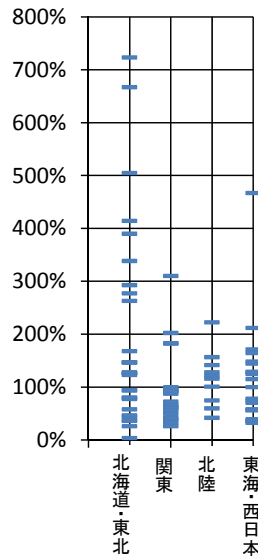


図. 2012年9月~2013年1月のマガモの最大数を昨年同時期と比べた比率。



写真. オスのマガモ。

以外の地域では今年の方が数が増えた調査地の方が多かったことがわかりました。

### カモ類が増えた調査地は西日本に多い

他のカモ類でも対昨年比率を計算し、個体数が増加した調査地と減少した調査地の数を地方ごとに調べてみました。すると、北陸と東海から西の地方の方が、関東より北の地方よりも、カモの数が増えた調査地が多いことがわかりました。この分析はカモの全数を比較しているのではありませんが、各地点の増減傾向は、全体の増減傾向を反映しているのではないかと思います。ただし北陸のように調査地数が少ない地域では、地域全体の増減傾向を反映していないかもしれませんので、その点に留意してご覧下さい。カモ類の個体数の増減傾向が地方によって異なる理由はわかりませんが、今年12月から1月にかけて低気温と降雪が続いたため、例年は冬期にカモが多くなるはずの地域では、越冬地が南にシフトしたのかもしれない。

	北海道・東北	関東	北陸	東海・西日本
マガモ	19:12	4:14	7:3	7:10
コガモ	9:11	8:17	5:5	10:10
カルガモ	5:11	15:13	4:4	13:7
オナガガモ	7:14	2:9	5:3	9:10
ヒドリガモ	8:12	7:5	4:2	13:13
キンクロハジロ	11:5	7:10	3:0	7:8
ホシハジロ	5:4	3:4	3:1	9:5

表. 2012/13年のカモ類の個体数が昨年比で「増加した調査地:減少した調査地」の比較表。カモ類の個体数が増加した調査地が減少した調査地の1.5倍以上だと青、その逆だと赤に塗り分けしている。

### 魚食をするカモの目撃例

11月からガンカモ調査参加者用のメーリングリストを作り、調査にかかわる情報をやりとりしているのですが、カモ類の魚食のことが話題に上りました。大阪の履中天皇陵で、マガモが潜水して魚を捕まえて飲み込む様子が観察されたそうなのですが、その書き込みを皮切りに、栃木県宇都宮市でカルガモが10cmほどの魚を食べていたという目撃談や、ハシビロガモ、オシドリ魚食事例についても紹介がありました。カルガモについては、アメリカザリガニを食べていたという例も教えていただきました。のんびりして見えるカモですが、動きの速い魚を捕まえているとは、ちょっと驚きました。